

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（地域包括支援センター）

センター名 京都市粟田地域包括支援センター

1 施設の管理運営

【開所日及び開所時間】 開所日：月曜日～金曜日（年末年始休業） 開所時間：午前9時～午後5時 ただし、休業日、休業時間帯の電話に対しては、時間外対応の職員を予め決めており、その担当職員の業務用携帯電話に転送され緊急時の対応にあっている。 【事業実施地域】 有済学区・粟田学区・弥栄学区・新道学区
(参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容

2 事業実施内容

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援を行っている。 ・地域ケア会議等を通じ各事業所をはじめとする関係機関との連携構築を図った。 ・携帯電話等活用し24時間365日相談の受け入れ体制を整えている。 ・権利擁護ネットワークによる関係構築や高齢者虐待防止の勉強会に参加した。 ・センターミーティングでケアプランチェックを行いケアマネジメントの質の向上を図っている。 ・教育機関への認知症サポーター養成講座の開催を積極的に行い、コミュニティーづくりに努力した。 ・例年より多くの成年後見制度申立て手続きを弁護士や司法書士と協力し行った。
(参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容
(参考) 自主事業内容

3 サービス提供状況

主任介護支援専門員1名、保健師1名、社会福祉士1名、介護支援専門員1名を配置し、それぞれの専門性を活かしチームによる対応を行った。病欠者や退職により、体制が落ちた期間もあったが、職員全員でフォローし対応にあたった。
(参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容

4 市内中小企業への発注に対する考え方

市内中小企業へ優先して発注するよう努めている。

5 施設の利用状況（施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など）

(1) 介護予防支援給付対象者数（実績値）

人

(2) 相談延べ件数（実績値）

件

(3) 収支実績

ア 令和5年度収入状況（単位：円）

委託料	19,413,500
介護保険収入	6,965,838
その他	281
収入計	26,379,619

イ 令和5年度支出状況（単位：円）

人件費	19,362,703
事業費	1,631,640
委託費	1,022,783
小額修繕費	0
その他	0
支出計	22,017,126

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

定期的なモニタリングでサービスにおける効果や満足度等を把握している。

(2) 利用者満足度把握の結果

介護予防給付事業におけるモニタリングを通じ又、地域行事、地域ケア会議等地域との繋がりの中で地域包括支援センターの職員のことや仕事の姿勢などを聞き取っており、大きな苦情やクレームなどはないが、意見があれば適切に対応している。

(3) 意見等への主な対応状況

地域ケア会議や地域行事など地域の活動において地域の声に耳を傾け、迅速に対応できる体制をとり、信頼される地域の拠点となれるように努めた。

7 その他特記事項

(1)

東山区の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員で構成しているネットワーク組織（主任ネット東山）を活用し、東山医師会や東山歯科医師会等と顔の見える関係づくりのため定期的に会議や研修会を開催している。

(2)

東山区の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員で構成しているネットワーク組織を活用し、東山医師会や東山歯科医師会などと顔の見える関係づくりのため定期的に会議や研修会を開催している。特に京都第一赤十字病院と東山区にある訪問看護ステーション事業所と東山区で活動する主任介護支援専門員とのネットワーク（東山SML）を構築し、入退院に関する地域課題等を検討し、課題（相互理解が必要）に対するアプローチ（研修会・情報交換会）を行った。

8 評価（指定管理者自己評価）

令和4年度との比較では相談件数・ケアプラン担当者数ともに増加した。高齢者人口は減少している中、相談件数やケアプラン件数が増加したのは、長かった新型コロナウイルス感染予防対策によるフレイル等による影響も大きいと思われる。新型コロナウイルスが5類へ移行したが引き続き感染対策を講じながら、東山区独自のネットワークを活用し、医療と介護の連携促進のための活動や地域行事に積極的に参加を行い地域の関係機関等との連携強化を図った。地域ケア会議も感染対策を講じⅠからⅢまで体系的に開催でき地域とのネットワークの構築や地域課題の抽出から社会資源の開発に向けた活動を再構築している。障害を理由とする差別の解消に向けた職員研修により理解を深めた。